

## 令和4年上半期火災・救急概況（速報）

～1月1日から6月30日まで～

### ① 電気火災※の割合が過去最高に！！

**原因別では、全火災で「たばこ」、住宅火災は「こんろ」が最多。死者はすべて高齢者**

- ・ 火災件数（全火災）は336件で、前年同期と比べて52件減少し、過去最少となりましたが、全火災及び住宅火災に占める電気火災の割合（全火災33.0%・住宅火災40.3%）は過去最高となりました。
- ・ 出火原因は全火災では「たばこ」51件、住宅火災では「こんろ」29件が最多となり、火災による死者（放火自殺を除く）は全火災で7人、住宅火災で5人発生し、すべて65歳以上の高齢者の方でした。

### ② 救急出場件数、搬送人員いずれも過去最多に！！

- ・ 救急出場件数は113,227件で、前年同期と比べて18,482件（19.5%）増加し、搬送人員も91,832人で、前年同期と比べて11,897人（14.9%）増加し、いずれも過去最多を記録しました。
- ・ 搬送人員の割合を年代別にみると高齢者が57.5%、傷病程度別にみると中等症以上が53.8%を占めました。

※電気火災とは電気に起因する火災で、リチウムイオンバッテリーや家電製品などの電気機器のほか、電気こんろ、電気ストーブ、テーブルタップなどが発火源となった火災です。

## 1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）

### (1) 火災件数【図1】【図2】

- ・ 火災件数（全火災）は336件（前年同期比52件減）で、平成9年以降最少となりました。
- ・ 住宅火災は149件（同6件減）で、変動はあるものの、ゆるやかな減少傾向となっています。
- ・ 減少傾向にある全火災及び住宅火災ですが、電気火災が全火災で111件（同4件減）、住宅火災で60件（同1件増）となり、それぞれに占める電気火災の割合（全火災33.0%、住宅火災40.3%）が過去最高となりました。
- ・ 全火災（()内は住宅火災）における電気火災の発火源として、リチウムイオンバッテリー18件（10件）、電気ストーブ17件（17件）、テーブルタップ5件（4件）から出火したものが上位となっています。
- ・ リチウムイオンバッテリー18件のうち、燃やすごみの中に混入したバッテリーが<sup>じんかい</sup>塵芥車の回転板等で圧縮され、バッテリー内部で短絡（ショート）を起こし出火するケースが5件（同5件増）発生しています。

図1 全火災における電気火災の推移

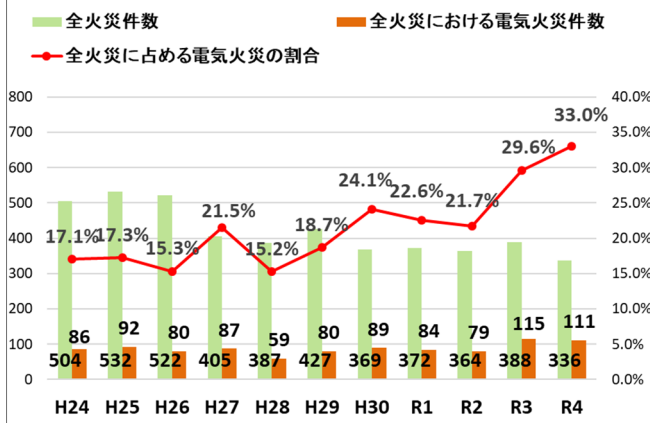
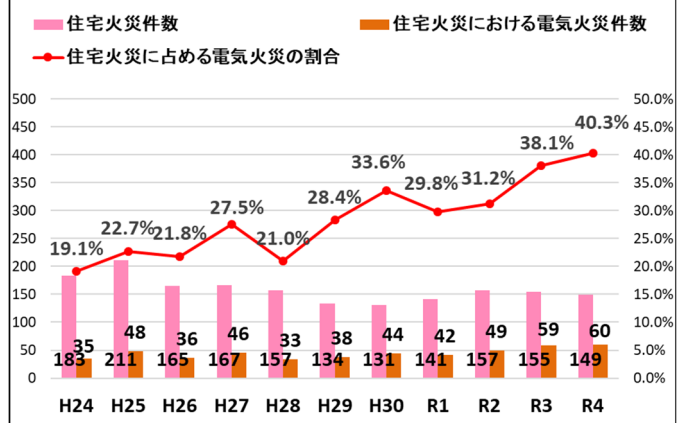
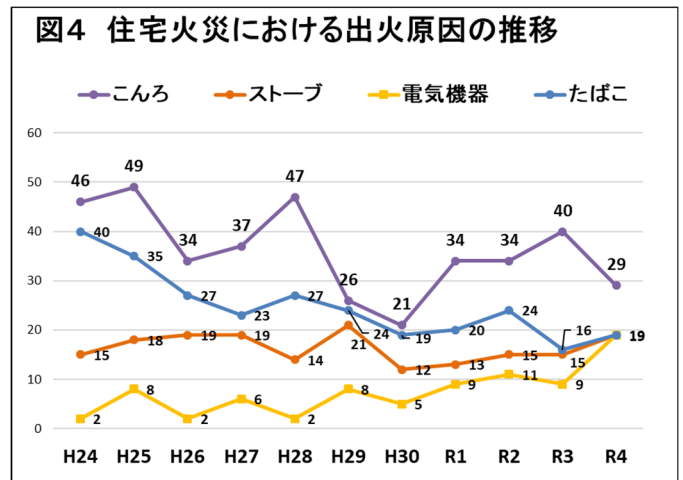
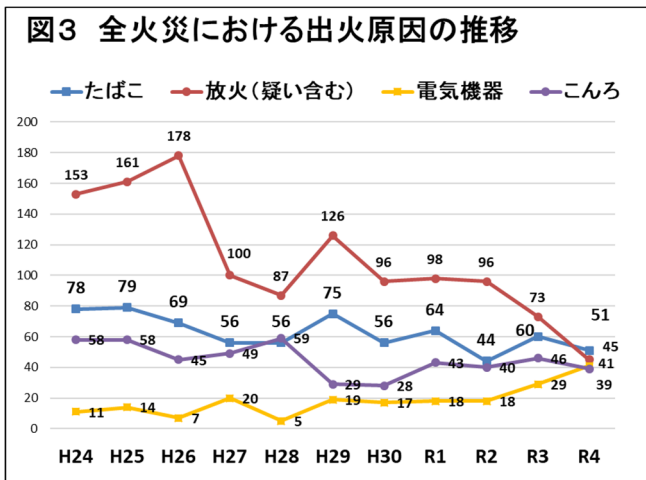


図2 住宅火災における電気火災の推移



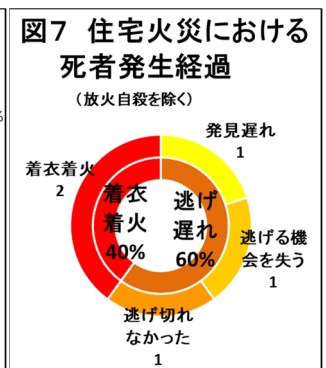
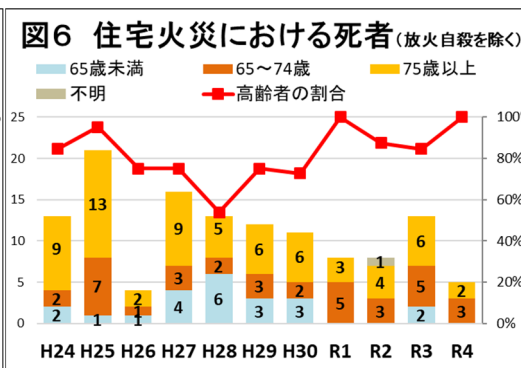
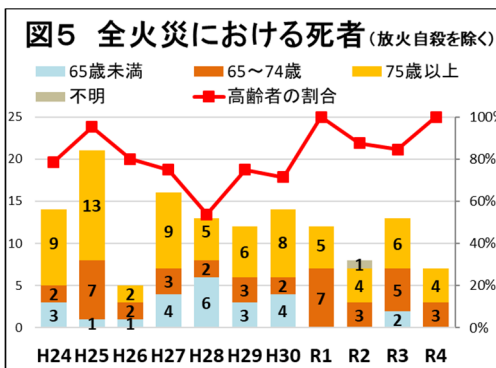
## (2) 主な出火原因【図3】【図4】

- 全火災（336件）の出火原因の上位は、「たばこ」51件（前年同期比9件減）、「放火（疑いを含む）」45件（同28件減）となり、昭和60年から連続して最多であった「放火（疑いを含む）」が減少して「たばこ」が最多となりました。また、「電気機器」41件（同12件増）が「こんろ」39件（同7件減）を抜いて上位3位となっています。
- 住宅火災（149件）の出火原因の上位は、「こんろ」29件（同11件減）となり、例年どおり最多となりました。また、「電気機器」19件（同10件増）、「ストーブ」19件（同4件増）、「たばこ」19件（同3件増）が並んで上位2位となっています。
- 住宅火災におけるこんろから出火した火災は、揚げ物中に目を離していたものが8件（27.6%）を占めるほか、こんろの近くに置かれた可燃物に着火したものが7件（24.1%）、着衣に着火して出火したものが6件（20.7%）発生しています。
- 全火災（）内は住宅火災）における電気機器の発火源として、リチウムイオンバッテリー18件（10件）、その他の電気機器6件（2件）、電子レンジ4件（3件）から出火したものが上位となっています。



## (3) 火災による死者【図5】【図6】【図7】

- 全火災における死者（放火自殺を除く）は7人（前年同期比6人減）で、すべて65歳以上の高齢者（うち4人が75歳以上）の方でした。
- 住宅火災における死者（放火自殺を除く）は5人（同8人減）で、すべて65歳以上の高齢者（うち2人が75歳以上）の方でした。また、5人のうち、3人が逃げ遅れ、2人が着衣着火で亡くなっています。



## 住宅用火災警報器があなたと家族の命を守ります！



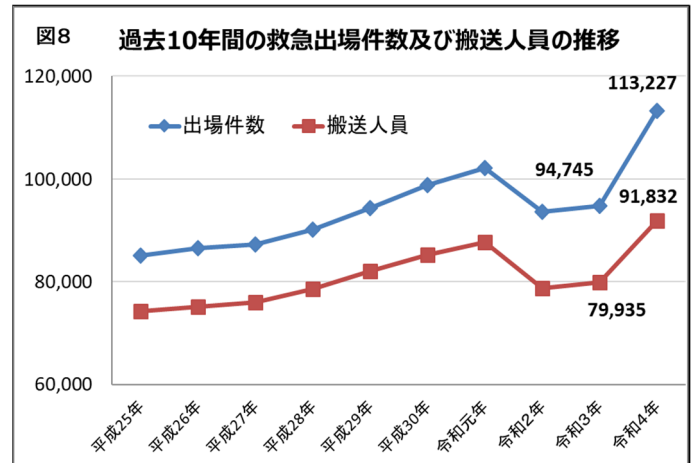
住宅用火災警報器は火災の発生を早期に発見し、逃げ遅れを防ぐことができる重要な機器です。  
 設置義務化から10年以上が経過しており、電池切れ等により、火災時に正常に作動しない事例が多数あります。  
 いざという時に、正常に作動するように日頃から点検を行い、異常があった警報器は新しいものに取り換えましょう。



## 2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

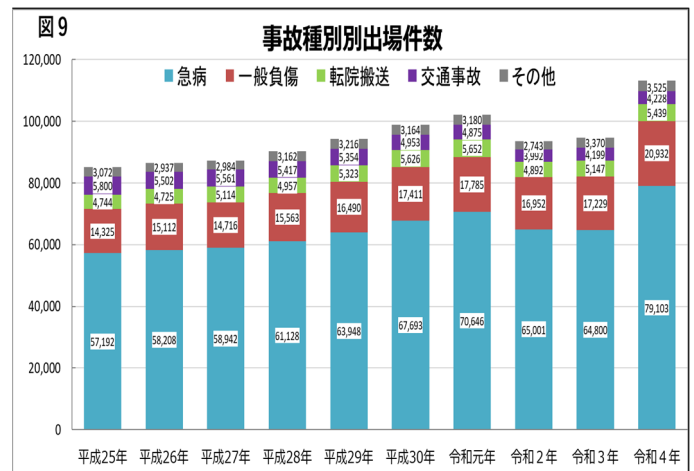
### (1) 救急出場件数及び搬送人員【図8】

- 救急出場件数は113,227件（前年同期比18,482件増）で、過去最多を記録しました。
- 搬送人員は91,832人（同11,897人増）で、過去最多を記録しました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は626件で、前年同期の523件と比べて102件増加しました。
- 2分18秒に1回救急車が出場していることとなります（前年同期は2分45秒に1回）。



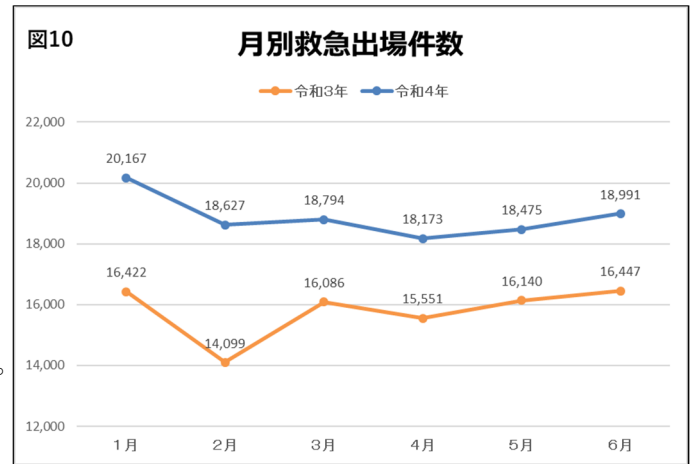
### (2) 事故種別別出場件数【図9】

- 救急出場件数が多い事故種別は、「急病」79,103件（前年同期比14,303件増）、「一般負傷※」20,932件（同3,703件増）、「転院搬送」5,439件（同292件増）、「交通事故」4,228件（同29件増）の順となりました。
- 全救急出場件数のうち、急病が69.9%、一般負傷が18.5%を占めました。  
※一般負傷とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど、熱中症等が該当します。



### (3) 月別出場件数【図10】

- 前年同期と比べて全ての月で増加しました。
- 1月の救急出場件数は20,167件（前年同月比3,745件増）で、上半期で最多となりました。
- 1月の1日あたりの平均救急出場件数は651件で、前年同月の530件と比べて121件増加しました。

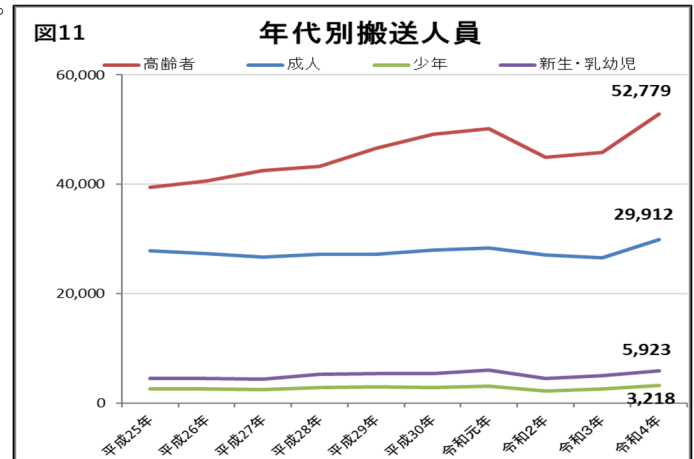


### (4) 行政区別出場件数

- 前年同期と比べて全ての行政区で増加しました。
- 出場件数が多い行政区は、港北区（8,873件）、鶴見区（8,442件）、戸塚区（8,181件）、中区（8,069件）、旭区（7,536件）の順となりました。

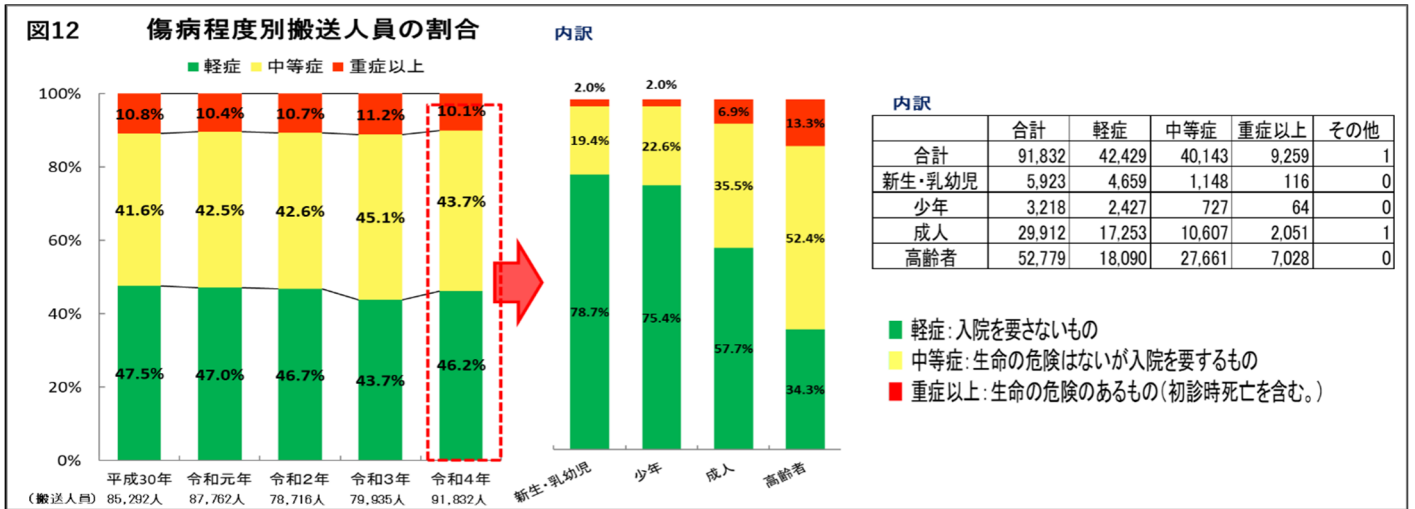
### (5) 年代別搬送人員【図11】

- 前年同期と比べて全ての年代で増加しました。
- 搬送人員の年代別では、65歳以上の「高齢者」が52,779人（57.5%）、18歳以上65歳未満の「成人」が29,912人（32.6%）、7歳未満の「新生・乳幼児」が5,923人（6.4%）、7歳以上18歳未満の「少年」が3,218人（3.5%）の順となりました。



**(6) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図12】**

- ・ 傷病程度別の搬送人員は、軽症が 42,429 人（前年同期比 7,487 人増）、中等症が 40,143 人（同 4,081 人増）、重症以上が 9,259 人（同 332 人増）の順となりました。
- ・ 「新生・乳幼児」及び「少年」では7割以上が軽症であるのに対して、「高齢者」では6割以上が入院を必要とする中等症及び重症以上となりました。



※グラフ等の割合は小数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100.0%にならない場合があります。

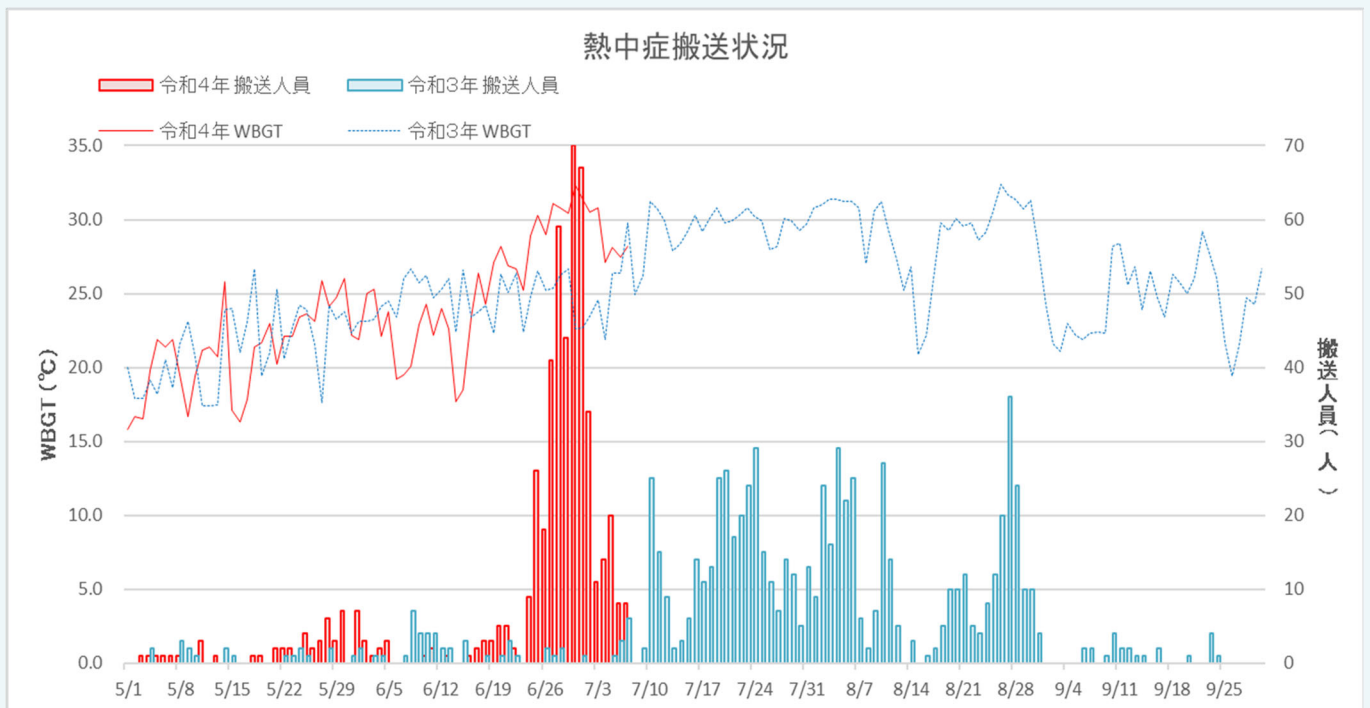
今年は気象庁の統計開始以降、最も早い梅雨明けとなり、6月下旬に暑さ指数（WBGT）が31℃以上（危険）を記録するなど、熱中症の救急搬送が急増しています。



**7月・8月には気温や暑さ指数が更に上昇することが予想されます。**  
**こまめな水分補給、適切な設定温度でのエアコンの使用、感染リスクが低い場面ではマスクを外すなど、熱中症にお気をつけください！**



横浜市消防局  
 マスコットキャラクター  
 ハマくん



※熱中症搬送状況は、熱中症疑いも含まれます。  
 ※令和4年搬送人員は速報値のため、後日変更する可能性があります。  
 ※暑さ指数（WBGT）は、環境省のデータを使用しています。

**お問合せ先**

(火災に関すること) 消防局予防課長 宇多 範泰 Tel 045-334-6601  
 (救急に関すること) 消防局救急課長 石黒 靖雄 Tel 045-334-6771



## 火災概況〈速報〉

## 1 火災種別・損害状況

単位：件

年別		令和4年	令和3年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成24年～令和3年) (C)	(A) - (C)
火災種別	火災件数	336	388	△52	427	△91
	建物火災	226	258	△32	247	△21
	住宅火災	149	155	△6	160	△11
	林野火災	-	-	-	-	-
	車両火災	33	28	5	32	1
	船舶火災	-	2	△2	1	△1
	航空機火災	-	-	-	-	-
その他の火災	77	100	△23	146	△69	
損害状況	焼損床面積(㎡)	3,107	6,287	△3,180	4,143	△1,036
	死者(人)	8	13	△5	15	△7
	放火自殺者	1	-	1	2	△1
	負傷者(人)	63	68	△5	70	△7
	住宅火災	2,308	2,352	△44	2,502	△194
	死者(人)	6	13	△7	13	△7
	放火自殺者	1	-	1	1	-
負傷者(人)	51	46	5	52	△1	

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 2 主な出火原因

単位：件

年別		令和4年	令和3年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成24年～令和3年) (C)	(A) - (C)
全火災	たばこ	51	60	△9	64	△13
	放火(疑いを含む)	45	73	△28	117	△72
	電気機器	41 (41)	29 (29)	12 (12)	16 (16)	25 (25)
	こんろ	39 (3)	46 (7)	△7 (△4)	46 (4)	△7 (△1)
	ストーブ	20 (17)	18 (15)	2 (2)	18 (12)	2 (5)
	上記以外の出火原因	140 (50)	162 (64)	△22 (△14)	167 (53)	△27 (△3)
	計	336 (111)	388 (115)	△52 (△4)	427 (85)	△91 (26)
住宅火災	こんろ	29 (3)	40 (6)	△11 (△3)	37 (4)	△8 (△1)
	電気機器	19 (19)	9 (9)	10 (10)	6 (6)	13 (13)
	ストーブ	19 (17)	15 (13)	4 (4)	16 (11)	3 (6)
	たばこ	19	16	3	26	△7
	配線器具	11 (11)	11 (11)	-	9 (9)	2 (2)
	上記以外の出火原因	52 (10)	64 (20)	△12 (△10)	66 (13)	△14 (△3)
	計	149 (60)	155 (59)	△6 (1)	160 (43)	△11 (17)

備考 ( )内は電気起因する火災で各出火原因の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別		令和4年	令和3年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成24年～令和3年) (C)	(A) - (C)
行政区	鶴見区	24	21	3	40	△16
	神奈川区	27	20	7	27	-
	西区	18	20	△2	18	-
	中区	28	40	△12	38	△10
	南区	14	24	△10	28	△14
	港南区	21	32	△11	23	△2
	保土ヶ谷区	19	19	-	19	-
	旭区	22	26	△4	28	△6
	磯子区	12	16	△4	14	△2
	金沢区	13	22	△9	18	△5
	港北区	29	32	△3	38	△9
	緑区	17	13	4	20	△3
	青葉区	16	24	△8	23	△7
	都筑区	11	17	△6	21	△10
	戸塚区	35	23	12	28	7
	栄区	12	7	5	9	3
	泉区	12	18	△6	19	△7
瀬谷区	6	14	△8	19	△13	
合計	336	388	△52	427	△91	

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 令和4年上半期の救急状況〈速報〉

## 1 救急出場件数

区分	令和4年	令和3年	増△減	増減率
救急出場件数	113,227	94,745	18,482	19.5%
1日あたりの件数	626	523	102	
出場率（何分何秒に1回）	2分18秒に1回	2分45秒に1回		

## 2 事故種別別救急出場件数

区分	令和4年		令和3年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	113,227	100.0%	94,745	100.0%	18,482	19.5%	
事故種別	急病	79,103	69.9%	64,800	68.4%	14,303	22.1%
	一般負傷	20,932	18.5%	17,229	18.2%	3,703	21.5%
	転院搬送	5,439	4.8%	5,147	5.4%	292	5.7%
	交通事故	4,228	3.7%	4,199	4.4%	29	0.7%
	その他	3,525	3.1%	3,370	3.6%	155	4.6%

## 3 傷病程度別搬送人員

区分	令和4年		令和3年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	91,832	100.0%	79,935	100.0%	11,897	14.9%	
程度	軽症	42,429	46.2%	34,942	43.7%	7,487	21.4%
	中等症	40,143	43.7%	36,062	45.1%	4,081	11.3%
	重症以上	9,259	10.1%	8,927	11.2%	332	3.7%
	その他	1	0.0%	4	0.0%	△3	△75.0%

## 4 年代別搬送人員

区分	令和4年		令和3年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	91,832	100.0%	79,935	100.0%	11,897	14.9%	
年代	高齢者	52,779	57.5%	45,816	57.3%	6,963	15.2%
	成人	29,912	32.6%	26,514	33.2%	3,398	12.8%
	少年	3,218	3.5%	2,629	3.3%	589	22.4%
	新生・乳幼児	5,923	6.4%	4,976	6.2%	947	19.0%

## 5 発生行政区別救急出場件数

区分	令和4年		令和3年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	113,227	100.0%	94,745	100.0%	18,482	19.5%	
行政区	鶴見	8,442	7.5%	6,880	7.3%	1,562	22.7%
	神奈川	6,923	6.1%	6,014	6.3%	909	15.1%
	西	4,660	4.1%	3,585	3.8%	1,075	30.0%
	中	8,069	7.1%	7,232	7.6%	837	11.6%
	南	7,220	6.4%	5,969	6.3%	1,251	21.0%
	港南	6,715	5.9%	5,439	5.7%	1,276	23.5%
	保土ヶ谷	6,300	5.6%	5,385	5.7%	915	17.0%
	旭	7,536	6.7%	6,421	6.8%	1,115	17.4%
	磯子	5,174	4.6%	4,285	4.5%	889	20.7%
	金沢	6,040	5.3%	5,299	5.6%	741	14.0%
	港北	8,873	7.8%	7,596	8.0%	1,277	16.8%
	緑	5,088	4.5%	4,210	4.4%	878	20.9%
	青葉	6,941	6.1%	5,707	6.0%	1,234	21.6%
	都筑	4,835	4.3%	3,850	4.1%	985	25.6%
	戸塚	8,181	7.2%	6,964	7.4%	1,217	17.5%
	栄	3,587	3.2%	2,975	3.1%	612	20.6%
	泉	4,736	4.2%	3,692	3.9%	1,044	28.3%
瀬谷	3,886	3.4%	3,214	3.4%	672	20.9%	
市外	21	0.0%	28	0.0%	△7	△25.0%	

## 6 月別救急出場件数

区分	令和4年		令和3年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	113,227	100.0%	94,745	100.0%	18,482	19.5%
1月	20,167	17.8%	16,422	17.3%	3,745	22.8%
2月	18,627	16.5%	14,099	14.9%	4,528	32.1%
3月	18,794	16.6%	16,086	17.0%	2,708	16.8%
4月	18,173	16.1%	15,551	16.4%	2,622	16.9%
5月	18,475	16.3%	16,140	17.0%	2,335	14.5%
6月	18,991	16.8%	16,447	17.4%	2,544	15.5%

※すべての表の構成比は少数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。